

東京産のピッグスキン 2026

Tokyo Leather PIGSKIN

特集

誌上オープンファクトリー

革工場見学



Tokyo Leather
pig skin



TOKYO LEATHER PIGSKIN 2026 東京都／東京製革業産地振興協議会

東京レザーファッションフェア(ビギーズ・スペシャル)に係る
都内皮革製革業の広報・宣伝業務

第2回 TOKYO TEXTILE SCOPE 2026AW

主催：一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構
JFW テキスタイル事業運営委員会

後援：経済産業省、独立行政法人中小企業基盤整備機構、他

産業労働局商工部 経営支援課
2025年11月発行
登録番号(7)129

古紙パルプを70%以上配合した紙を使用しています。
環境に配慮したインキを使用しています。

TOKYO LEATHER PIGSKIN 2026

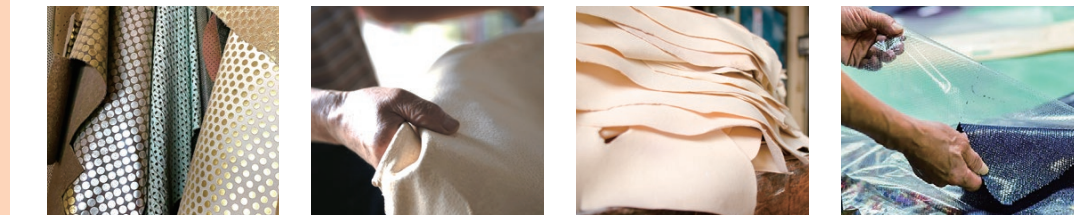
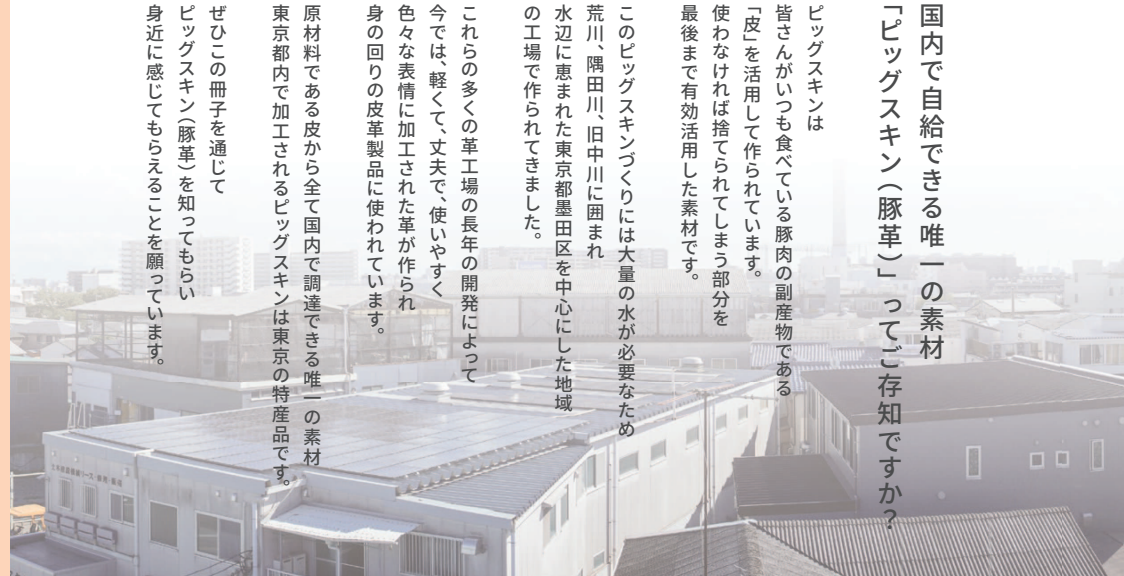
国内で自給できる唯一の素材
「ビッグスキン（豚革）」ってご存知ですか？

ビッグスキンは
皆さんがいつも食べている豚肉の副産物である
「皮」を活用して作られています。
使わなければ捨てられてしまう部分を
最後まで有効活用した素材です。

このビッグスキンづくりには大量の水が必要なため
荒川、隅田川、旧中川に囲まれ
水辺に恵まれた東京都墨田区を中心とした地域
の工場で作られてきました。

これらの多くの革工場の長年の開発によって
今では、軽くて、丈夫で、使いやすく
色々な表情に加工された革が作られ
身の回りの皮革製品に使われています。

原材料である皮から全て国内で調達できる唯一の素材
東京都内で加工されるビッグスキンは東京の特産品です。
ぜひこの冊子を通じて
ビッグスキン（豚革）を知ってもらい
身近に感じてもらうことを願っています。



東京の特産品 「ビッグスキン」の歴史



東京都の特産品である TOKYO LEATHER PIGSKIN 豚革は東京都墨田区周辺で生産されています。どうしてこの地でビッグスキンが作られているのか、歴史を振り返ってみます。

私たちの身の回りには革製品。その歴史は古く、西洋では古代ギリシャ・ローマ時代から履物や衣服の素材として利用されてきました。日本での革の歴史は1500年以上前に遡り、大和時代の記録には、動物の皮を加工したものが朝廷へ献上されていたと記されています。

時代が下り、武士が台頭する鎌倉時代になると、皮革は鎧や兜、馬具といった武器に不可欠となり重要性が飛躍的に高まりました。そして、武士の世が終わり泰平の江戸時代を迎えると、皮革加工は武士の仕事から町人の仕事へと移ります。

日本の皮革産業が大きな転換点を迎えたのは19世紀後半の明治維新です。明治政府は「富国強兵」のスローガンを掲げ、西洋の技術や文化を積極的に導入。この政策は皮革産業に二つの大きな追い風をもたらします。一つは軍隊の近代化です。兵士の履物が従来の草鞋（わらじ）から革製の軍靴へと変わったことで、かつてない規模の革の需要が生まれました。

もう一つは、食文化の革命でした。1000年以上も公には禁じられていた肉食が解禁され、国民の間に広まり、食肉加工の過程で大量の副産物、動物の「皮」を供給することになったのです。

軍からの膨大な「需要」と、食文化の変化による潤沢な「供給」。この二つが首都・東京で結びついたことで、近代的な皮革産業が発展するための条件が整いました。

東京で豚革が作られる理由

では、なぜ東京の中でも墨田区周辺に皮革産業が集積したのでしょうか。その鍵を握るのが隅田川の存在です。

なぜかというところ...
 ならばど!
 川が近く、豊富な水が必要な、革のなめし工程に欠かせなかった!

実は東京・墨田区は“豚革の街”なんだ!

地理的条件がよかったんだ!

立地の強み!

原料の食肉処理場も近く、職人の町・浅草もすぐ隣!!

豚革は食肉の副産物を廃棄せず、革にアップサイクル!

皮

肉

日本の「もったいない」を価値に変えてるんだ!

原料は国内自給! 運搬のエネルギーを削減できるエコ素材

関東

関西

牛肉文化の関西に対し、関東では豚肉をたくさん食べてきた!

高級車の内装
ラグジュアリーブランド
スニーカー

採用する、世界も認める素材!

トップブランドも認める素材!

軽い!
通気性バツグン!!

豚革の弱み→強みに!
高い技術で弱みを魅力に変えたんです!

革職人

革は実用品から、個性を表現するファッションへ
1960年代 アイビーファッション!!

1990年代以降、技術を進化させデザイン性を追求!

墨田の職人たちは世界トップクラスの加工技術を誇るように!

1990年代以降、墨田の職人たちは「弱み」とされてきた特性を、見事な技術で「魅力」へと昇華させてきました。例えば、「豚革特有の毛穴は、抜群の通気性という機能的価値に、薄さは、製品の「軽さ」という大きなメリットに変わりました。

墨田の職人たちは、この豚革が持つ「弱み」とされてきた特性を、見事な技術で「魅力」へと昇華させてきました。例えば、「豚革特有の毛穴は、抜群の通気性という機能的価値に、薄さは、製品の「軽さ」という大きなメリットに変わりました。

墨田の特産品「TOKYO LEATHER PIGGSKIN」。それは、日本の長い歴史と食文化の中から生まれ、近代化の波に乗り、職人たちの知恵と工夫によって磨き上げられてきた、サステナブルな未来を担う素材です。

東京の特産品「TOKYO LEATHER PIGGSKIN」。それは、日本の長い歴史と食文化の中から生まれ、近代化の波に乗り、職人たちの知恵と工夫によって磨き上げられてきた、サステナブルな未来を担う素材です。

工場見学レポート!!

ファッションを支えるピッグスキン

革は実用品から、個性を表現するファッションへ
1960年代 アイビーファッション!!

1990年代以降、技術を進化させデザイン性を追求!

墨田の職人たちは世界トップクラスの加工技術を誇るように!

高級車の内装
ラグジュアリーブランド
スニーカー

採用する、世界も認める素材!

トップブランドも認める素材!

軽い!
通気性バツグン!!

豚革の弱み→強みに!
高い技術で弱みを魅力に変えたんです!

革職人

革は実用品から、個性を表現するファッションへ
1960年代 アイビーファッション!!

1990年代以降、技術を進化させデザイン性を追求!

墨田の職人たちは世界トップクラスの加工技術を誇るように!

こうして東京の地場産業として確立した豚革ですが、その価値は時代と共に変化していきます。戦後の高度経済成長期を経て人々の暮らしが豊かになると、革製品は単なる実用品から、個性を表現するファッションアイテムとしての役割を強く持つようになりました。1960年代のアイビールックやブーツの流行は、その象徴的な出来事です。こうした消費者の意識の変化に応えるように、1990年代以降、墨田の職人たちはも染色や加工技術を飛躍的に進化させ、よりデザイン性の高い、ファッションとしての革づくりに舵を切っていったのです。世界トップクラスの多様な加工を誇るようになりまし。

墨田の職人たちは、この豚革が持つ「弱み」とされてきた特性を、見事な技術で「魅力」へと昇華させてきました。例えば、「豚革特有の毛穴は、抜群の通気性という機能的価値に、薄さは、製品の「軽さ」という大きなメリットに変わりました。

墨田の特産品「TOKYO LEATHER PIGGSKIN」。それは、日本の長い歴史と食文化の中から生まれ、近代化の波に乗り、職人たちの知恵と工夫によって磨き上げられてきた、サステナブルな未来を担う素材です。

東京の特産品「TOKYO LEATHER PIGGSKIN」。それは、日本の長い歴史と食文化の中から生まれ、近代化の波に乗り、職人たちの知恵と工夫によって磨き上げられてきた、サステナブルな未来を担う素材です。

工場見学レポート!!

隅田川は皮を革へと加工するなめしに必要な大量の水を豊富に供給する生命線でした。さらに、原料となる皮を供給する食肉処理場に近く、そして靴や鞆、ベルトなどを作る職人や問屋が集まる浅草にも隣接するという地理的優位性を持っていたからです。当初、なめし工場は浅草周辺にも存在しましたが、工程で発生する排水の問題等から、次第に隅田川を越えた対岸、現在の墨田区東部へと移転していきました。

墨田区が牛革ではなく、「ピッグスキン」豚革の生産で日本の中心地となった背景には、関東と関西の食文化の違いがあります。歴史的に、東京を含む関東では戦後急速に人口が増え、早く育てられる豚肉が多く消費されてきました。東京のなめし業者にとって最も手に入りやすいのが豚の皮だったので。

東京のピッグスキンは、そのすべてが日本の食肉産業から出る「副産物」を原料としています。食肉用に育てられた豚の皮を廃棄することなく、価値の高い製品へとアップサイクルしているのです。さらに特筆すべきは、豚革が、繊維や牛革など多くの素材が海外からの原料輸入に頼る中で、原料の原皮が国内で自給自足できる唯一の革素材であるという点です。これにより、海外からの輸送に伴う燃料消費や二酸化炭素排出量を大幅に削減できるエコな素材となっています。

海外に目を向けると、豚革の評価は決して低いものではありません。靴や靴のライニング(内張り)に使われることが多いのですが、コスト削減のためだけではなく、その優れた強度、耐摩耗性、そして通気性が製品の品質と寿命を高めるからに他なりません。

さらに、欧米のラグジュアリーブランドでのバッグや靴、高級自動車の内装、人気スニーカーブランドに使われるなど、数々のトップブランドが豚革を製品に採用しています。これは、豚革の持つ独特の質感と機能的な価値が、世界レベルで認められていることの証拠です。

東京の特産品「TOKYO LEATHER PIGGSKIN」。それは、日本の長い歴史と食文化の中から生まれ、近代化の波に乗り、職人たちの知恵と工夫によって磨き上げられてきた、サステナブルな未来を担う素材です。

東京の特産品「TOKYO LEATHER PIGGSKIN」。それは、日本の長い歴史と食文化の中から生まれ、近代化の波に乗り、職人たちの知恵と工夫によって磨き上げられてきた、サステナブルな未来を担う素材です。

工場見学レポート!!